

9月24日～30日は結核予防週間です

当法人では、結核についての正しい知識と予防意識の普及、結核対策への関心を高めていただくため、宮城県内の小中学校、高校や官公庁などに周知ポスターと「結核の常識」を配布し、県内で様々な啓発活動を行っています。



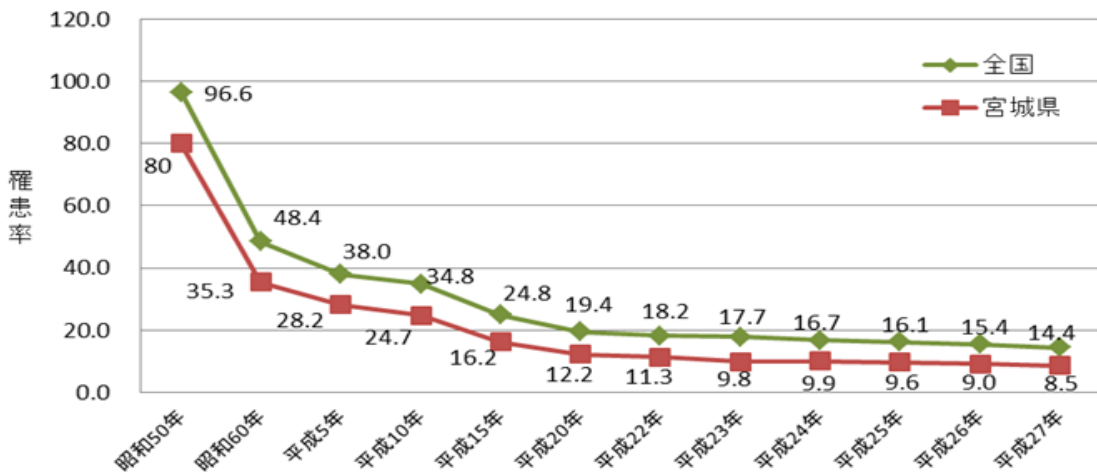
『知っていますか？ 「結核」が、現代の病気だってコト』

明治時代から昭和20年代までの長い間、「国民病」「亡国病」として恐れられ、50年前までは、年間死亡者数も10数万人におよび、死亡原因の第1位だった結核は、医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりました。

しかし、罹患率の減少速度も鈍化しており(下記表)、平成27年の統計では全国で18,280人、宮城県内で198人の新規患者が発生しました。

今でも、1日に50人の新しい患者が発生し、5人が命を落としている日本の重大な感染症なのです。

結核罹患率(人口10万対)年次推移



結核は人から人へうつる病気です。

結核の初期症状は、風邪と似ているため、気づかいうちに大切な家族や友人、職場などで感染を拡大させてしまうことがあります。

せきやタンが2週間以上続いたら、結核を疑って早めに医療機関を受診しましょう。



結核を予防するには？

免疫力が弱まり、発病するケースが増えています。

健康的な生活を心がけ、免疫力を高めましょう！ 不規則な生活や喫煙は厳禁です。